

JOMONESQUE JAPAN

ジョーモネスク ジャパン



Essay

富士山をめぐる旅

活動報告

ジョーモネスクジャパンの縄文土器レプリカ設置事業の実績 など

新潟県長岡市山通地域復興支援

vol.2

富士山をめぐる旅

NPO 法人 ジョーモネスクジャパン理事長 小林 達 雄



富士山はえも言われぬ不思議な力を秘めて日本文化に君臨する。万葉集に顔を出して以来、今日まで歌い継がれ止むことがない。絵画、漆工、金工、織物などの美術工芸の世界に行き渡り、その勢いは銭湯の壁画さえ席卷した。さらに土を盛り、石を積んで富士塚を築いて祈ってきた。とにかく日本人の心には知らず識らず富士山が刷りこまれているのである。おりから列車がそろそろその辺りにさしかかると、ふっと車窓に目を走らせ、御姿を追いかけてしまうのである。

かつて東海道を往来する旅もそうであったからこそ、あれほど浮世絵などに描かれ続けてきたのであり、昨日今日に始まったことではない。どうも縄文の大昔にまで遡る可能性が極めて高いのである。

静岡県芝川町窪A遺跡は、縄文時代開幕間もないムラであった。その場所の北東真正面には富士の勇姿が大きく立ちほだかって、見事な風景を創っている。朝な夕なに縄文人はそれを目の中に入れていたのだ。時代を下って縄文中期ともなると、とくに富士山が良く見える場所にムラが営まれる事例が目立ってくる。しかも、祭祀的なストーンサークルを構築したりしているのである。

山梨県は、その名に背いて山また山が重なり、富士の足元でありながら四周の山並に邪魔されてなかなか姿を仰ぐことができない。ところが都留市の牛石遺跡に限っては例外的に富士山頂が見える特別な位置にあり、そこに直径約五〇メートルのストーンサークルがつくられている。しかもその真西に聳える三ツ峠山の真中の頂に春分秋分の日に太陽が沈むとき、放射状の光芒が輝き、いわゆる神秘的なダイヤモンドフラッシュ現象を見せるのである。ところがストーンサークルの位置を少しでも離れると富士山頂が隠れ、三ツ峠山の天然の大イベントを見ることができなくなる。縄文人は十分承知の上で場所を選んでいたことをまがう方なく物語っているのである。似たようなストーンサークルは静岡県富士宮市の千居(せんご)遺跡にも認められる。帯状の列石が富士山を目指すかのように配置されている。富士山麓に近づくほどに火山灰が厚く堆積しており、当時しばしば火を吐き、噴煙を高く上げていたことがわかる。その活発な火山活動を繰り返す富士山にまともに向き合う場所にストーンサークルを作っているのである。おそらくは何かしら儀礼、祭祀の場として富士山と密接に関係していたことを窺わせる。

我が身を振り返れば、物心ついてクレヨンを手にするや、飽かず富士山を描きまくった思い出がある。洛中洛外図風の雲をあしらって以下省略が得意技と自認していた。それにしても、あこがれの富士に出会えたのは遅れに遅れて高校二年生の修学旅行を待たねばならなかった。さすが本物、圧倒されて、ぐうの音も出なかった。愛すべき我が少年画伯の絵はたちまち色褪せて記憶の彼方に消えてしまった。とにかく、ゆったりと裾野を広げた不動の姿勢は、それまで抱き続けてきたイメージとは大きくかけ離れるものであった。

こうした正真正銘の富士とイメージとのずれは、私の個人的印象だけではなさそうである。このことに目をつけて理詰めで論じた人物がいる。明治一〇(一八七七)年に東京大森貝塚を発掘した縄文考古学の開祖、米人エドワード・モースである。東京帝国大学の外国人お雇い教師として動物学教室を興し、いち早く進化論を紹介した功績でよく知られている。

そのモースは滞日中に、日本のあれこれを興味深く観察して、『日本その日その日』を著した。その中で、富士山をめぐる学生達とのやりとりがおもしろい。つまり、ある日、富士山の輪郭を描くように要求するのであるが、とくに斜面の角度に気をつけるようにと念を押したのにもかかわらず、出来上がりは一人の例外もなく、現実よりずっと鋭角な絵になっていたのである。モースは目論み通りの結果にほくそ笑み、学生たちは思惑との大はずれに苦笑したのであった。

それにしても日本人は一万年以上も富士山と慣れ親しんできたのに、なんとそのイメージするカタチは本物の姿とは全く合致していなかったのである。もっともモースはこのことについて咎め立てすることはなかった。そして、日本に限らず、どの国でも、山を描くときは、どうも実際よりもはるかに険しく誇張しがちになるらしいと、おおよそ理解を示してくれた。たしかにその方がよほど頼りがいのある力を思わせるのである。

それはそれ、いまの私は鉄道も高速道も飛び超えて、富士山を手繰りつつ縄文世界へのタイムスリップの旅を続けているのである。

活動報告

副理事長 鈴木重彦

1. ジョーモネスクジャンプの縄文土器レプリカ設置事業の実績

① 火焰型土器等の設置について

平成10年 国営越後丘陵公園一部開園を祝い長岡駅前と国道8号線に火焰型土器設置 フラワーロード実行委員会
国道8号線の火焰型土器はイベント終了後に「千秋が原ふるさとの森」アトリウム前に移設^②

平成13年 縄文のアピールと新時代への構想として「過去への門」設置^③ 長岡ロータリークラブ

14年 歴史博物館前に火焰型土器設置^④ 東京関原会

15年 国道8号線・市道77号線(博物館への導入路)接合個所に火焰型土器設置^⑤ 関原地区連合町内会

15年 歴史博物館前に火焰型土器設置^⑥ 長岡柏ライオンズクラブ

18年 中越震災復興祈念「大地のビーナス」ブロンズ像設置^⑦ 国際ロータリー第2560

21年 NPO法人ジョーモネスクジャンプ設立記念 歴史博物館前に王冠型土器設置^⑧ NPO法人ジョーモネスクジャンプ

② 今後の設置構想予定

■信濃川火焰街道連携事業とタイアップした火焰ロードの拠点に設置

津南町・十日町・小千谷など県内ルートへ展開

■長岡地域を拠点とすべく

川東地域への設置：山通地区(柿町…山下遺跡をアピール)

川西地区：市道77号線(博物館への導入路)から藤橋遺跡までのルートの充実

2. 歴史探訪と青少年育成事業についての予定

① 明治時代の農業技術向上と貧困打破への功労者、長岡市出身「田中長嶺」を顕彰する会の設立支援

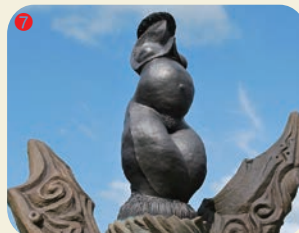
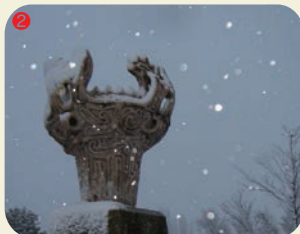
② 環境教育に資する事業の展開…遺跡発掘への参加、生物多様性の実学体験、関連書籍の紹介頒布など

3. その他の課題

① 会員の拡大…活動費の確保

② 事務処理の円滑化と活性化…専任者の確保

③ 情報の発信力強化…ホームページ、広報活動の充実



地域支援活動

新潟県長岡市山通地域復興支援

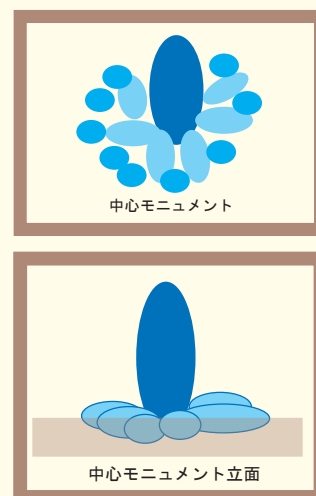
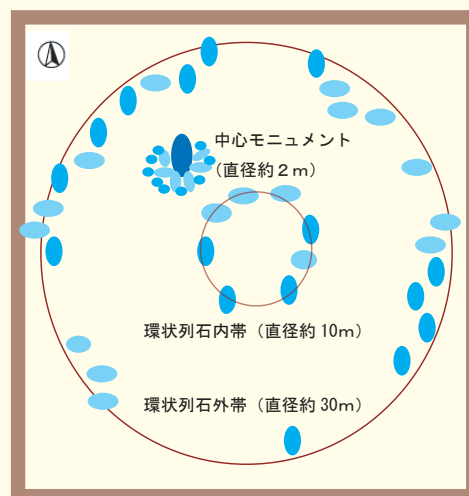
平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害を及ぼしました。お亡くなりなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

長岡市山通地域は信濃川右岸東山丘陵にひろがる地域です。平成16(2004)年に新潟県を襲った中越大震災の爪痕の大きな地域のひとつです。長岡市街地10Km圏内であるにもかかわらず、震災を契機に人口流出が進んでいます。長岡市山通地域には、市街地に近接しているとは思えない豊かな環境に恵まれています。柿川の左岸には、棚田や段々畑のひろがる里山景観が残り、歴史遺産を数多く残しています。里山景観の維持は、地域の人々の努力なしには不可能です。最近では、長岡市立柿小学校の卒業記念事業としてサケの稚魚放流をはじめ、サケの遡上復活を目指しています。また、いわゆる郷土料理に限定しない地域の食事再発見にも努めています。

NPOジョーモネスクジパンは、平成13(2002)年から平成21(2009)年にかけて同地域中の柿町山下遺跡の発掘調査および周辺地域の調査を行った縁で、この地域の人々とともに、地域資源を活用した新しい地域づくりを支援しています。発掘調査を実施した山下遺跡は、全容を明らかにしたわけではありませんが、地域の人々に重要な文化資源として理解いただいています。

山下遺跡は、縄文時代中期「火焰土器の時代」の集落跡と推定され、将来にわたって里山景観とともに、遺跡を保存していきたいと考えています。そのため、縄文時代の遺跡の存在を中核にして、地域の人々が参加できる方法を検討しています。

検討している計画のひとつに、縄文時代のストーンサークルをモデルとして、地域の人々が参加したモニュメント-モダン・ストーンサークルの造営を考えています。詳細はこれからの検討を要しますが、現代の私たちがつくるストーンサークルは、地域復興の証になることを願っています。



お知らせ 新年度会費納入のお願い

ジョーモネスクジパンでは会員の皆様に新年度会費納入をお願いしております。今年度より会費は銀行振込とさせていただきます。お手数ですが、下記口座にお振込みいただけますようお願い申し上げます。

北越銀行 本店 普通 2001222 NPO法人ジョーモネスクジパン
年会費は一般会員2,000円、協賛会員1口10,000円(1口以上でお願い致します。)
(誠に恐縮ですが振込手数料はご負担いただけますようお願い申し上げます。)

NPO法人 ジョーモネスクジパン 代表 小林達雄

代表事務所：〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町2-1-1

第2事務所：〒949-5401 新潟県長岡市飯島138-2

第3事務所：〒174-0064 東京都板橋区中台1-47-3

<http://www.jomonesque-japan.net>

2011年6月18日発行 編集：有限会社 アルケリサーチ 印刷：有限会社 平電子印刷所

長岡商工会議所内 TEL 0258-32-4500・FAX 0258-34-4500

TEL 0258-92-3198

TEL 03-3936-9956・FAX 03-5399-3244